

## 14 技術科の歴史的背景

### 1 普通教育としての技術教育の沿革

①日本の普通教育としての技術教育の教科の歴史は、小学校の実業的科目及び「手工」に始まる。前者は1881年の小学校教則綱領が「農業」「商業」「工業」を「土地ノ状況ニ因る加設科目」としたことによる。後者は、1886年に高等小学校に加設科目として設置された「手工」による。その後若干の変遷を経て、「手工」と「実業」は1926年より高等小学校の必修科目となつた。これにより「手工」と「実業」は普通教育あるいは青年期教育の教科としての地位を確立した。1941年に小学校が国民学校となると、手工は工作と改称してその初等科及び高等科の、また「実業」は高等科の必修科目となつた。②一方旧学制の中学校には長い間「実業」が加設科目とされていた。また1931年に新設・必修とされた「作業」科は、1943年の中等学校令では、「修練」に吸收・解消された。③1947年に発足した新学制の中学校では、必修教科の一つとして図画工作が設けられ、また小学校高等科の実業科を継承した「職業」が設置された。この「職業」は農業、工業、商業、水産、家庭からなり、その中から一つ以上を必修させた。「農業」を選択した学校が圧倒的に多かつたことには農業中心の意識が、女子に「家庭」を選択させた学校が多かった背景には根強い性役割分業意識があった。その後「職業」は、家庭科関係者の運動が奏効して「職業・家庭」と改称された。

### 2 「技術・家庭」の成立

1950年代に日本資本主義が復活強化され、技術革新といわれる時代に入ると、農業中心の職業・家庭は時代にそぐわないとされ、1958年の抜本的な教育課程改訂の一環として、職業・家庭の中の工的部分と図画工作の中の工的部分とを統一した新教科「技術・家庭」が成立した。（同時に、中学校の図画工作は美術となり、職業指導は、進路指導として特別活動の中に位置づけられた。）こうして日本の教育史上初めて「技術」の名をもつ教科が誕生した。ここには産業構造の変化が反映していた。しかしこの教科の内容は2分され、男子には「技術」が女子には「家庭」が課された。かくて義務教育課程では唯一の別学教科が成立した。

### 3 技術科成立以後の沿革

中学校学習指導要領はその後、1969、1977、1989及び1998年に改訂された。そのつど領域編成や履修方法に若干の改正が行なわれた。1989年版では、日本も女子差別撤廃条約を批准した関係で、性別の履修領域指定方式が完全に撤廃され、男女共学が実現した。1998年版では、初めて「技術」と「家庭」の目標、内容が別個の領域として位置づけられ、形式的にも技術科独立へ向けて一步前進した。

＜参考文献＞河野義顯・大谷良光・田中喜美  
『技術科の授業を創る』学文社、1999。  
(佐々木享)